

2023/2024 ショートトラック国際競技会派遣選手選考基準

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化部委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟(ISU)によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の出場可能人数
 - ・ ISUによる年齢制限(ISU一般規程 第108条2項)
 - ・ ISUによる参加標準記録
 - ・ 世界ショートトラック選手権大会のリレー出場枠
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録(後述)を設定し、条件を満たした選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ ISUの参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
~~本選考基準の発行日現在、ISUからジュニアワールドカップおよび世界ジュニア選手権の詳細について発表がないため、ジュニアワールドカップの選考人数およびジュニア国際競技会参加選手のシニア国際競技会への選考可否については保留とする。~~
- ・ 個人種目へのエントリーは、原則として対象競技会における各距離の成績に基づいて、上位から決定する。~~ただし、シニアワールドカップ大会における各種目の4番目の選手については、当該年度のJOCハイパフォーマンスディレクター、ショートトラック強化部長及び当該大会の日本代表選手団ヘッドコーチ(以下、この3名を「エントリー検討メンバー」という)の協議により、中長期的な強化の視点と編成方針を踏まえた総合的な検討によって決定する。また、ジュニアワールドカップにおける個人種目へのエントリーについては、対象競技会における成績に基づきつつ、選手の適性も考慮して、エントリー検討メンバーによる総合的な検討によって決定する。~~
ただし、ワールドカップ(シニア、ジュニアともに)については、本戦で同日に実施される距離のどちらに出場するかは、選手の適性を考慮して当該年度のJOCハイパフォーマンスディレクター、ショートトラック強化部長及び当該大会の日本代表選手団ヘッドコーチ(以下、この3名を「エントリー検討メンバー」という)の協議により、編成方針を踏まえた総合的な検討によって決定する。
- ・ チーム種目へのエントリーは、日本代表選手団ヘッドコーチを中心に、当該競技会に派遣されたコーチングスタッフによって検討し、エントリー検討メンバーの協議により、編成方針を踏まえた総合的な検討によって決定する。

- ・本選考基準において、エントリー検討メンバー内で意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。また、エントリー検討メンバーによる選考は、強化部委員会又は選考委員会の出席者(選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった利害関係者を除く)の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- ・前年度のシニア日本代表となった者が、感染症の患者に対する医療に関する法律、新型インフルエンザ等対策特別措置法その他の法令による公的な規制により対象競技会への参加ができない状況となった場合は、強化部委員会又は選考委員会の出席者(上記と同様に利害関係者を除く)によって選考方針を踏まえた総合的な検討を行い、全体の3分の2以上の多数をもって、下記の【選考基準】で選考される選手と変更することができる。この場合は、選考順位がより下位の選手と変更するものとする。
- ・代表選手の決定後、ケガや病気などによって大会への参加が困難だと判断された場合は、強化スタッフに登録されたスポーツドクターの診断・見解を参考に検討し、選考委員会又は理事会で補欠登録をされた選手と変更することができる。

1. ワールドカップ第1戦～第2戦~~及び~~四大陸ショートトラック選手権大会

【開催場所、期間】

第1戦:カナダ(モントリオール)、2023年10月20～22日

第2戦:カナダ(モントリオール)、2023年10月27～29日

~~四大陸ショートトラック選手権大会:カナダ(ラヴァール)、2023年11月3～5日~~

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各5名(合計最大10名)

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、5000mリレー(1)

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)

男女混合:男女混合2000mリレー(1)

※第1戦は1000mが2回、第2戦は1500mが2回実施される

【選考基準】

対象競技会:

- ・第34回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2023年10月7～8日)

男女最大各5名の正選手及び最大各3名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、500m または1000m のいずれかで派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。

ただし、以下の(2)で選考される者より上位の優先順であった者が、上記タイムトライアルに参加したものの派遣標準記録をクリアしていなかった場合は、対象競技会の最終日終了直後に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。

(2) 対象競技会において、各距離で第1位の者を選考する。

次に、各距離で第2位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第3位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

以下、派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。

(3) 上記(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女最大各3名を補欠として選考する。

(4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

~~同一シーズン内に、ジュニアワールドカップとシニアワールドカップの両方に出場することができない可能性がある。その場合、該当選手はどちらの大会に出場するかを選択する。~~

- ・ ISU Communication No.2579において、シニアワールドカップ第1～4戦に参加する/した選手はジュニアワールドカップ第1,2戦に参加しないように推奨していることから、ジュニアワールドカップ参加資格を持ち、本競技会の選考対象となった選手は、シニアとジュニアのどちらに参加するかを選択するものとする。

2. 四大陸ショートトラック選手権大会

【開催場所、期間】

四大陸ショートトラック選手権大会：カナダ(ラヴァル)、2023年11月3～5日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各5名(合計最大10名)

【枠数】

男子：500m(2)、1000m(3)、1500m(3)、5000mリレー(1)*

女子：500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)*

男女混合：男女混合2000mリレー(1)*

*リレー種目の出場権は、直近6回のワールドカップの成績(ベスト4大会のポイント)により決定される。

【選考基準】

対象競技会：

- ・ 第34回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2023年10月7～8日)

男女最大各5名の正選手及び最大各3名の補欠選手を以下の手順で選考する。

(5) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、500mまたは1000mのいずれかで派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。

ただし、以下の(2)で選考される者より上位の優先順であった者が、上記タイムトライアルに参加したものの派遣標準記録をクリアしていなかった場合は、対象競技会の最終日終了直後に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。

(6) 対象競技会において、各距離で第 1 位の者を選考する。

次に、各距離で第 2 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

以下、派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。

(7) 上記(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女最大各 3 名を補欠として選考する。

(8) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ **ワールドカップ第 1, 2 戦への派遣を辞退した選手は、本大会の選考も辞退するものとする。**

3. ワールドカップ第 3 戦～第 4 戦

【開催場所、期間】

第 3 戦: 中国(北京)、2023 年 12 月 8～10 日

第 4 戦: 韓国(ソウル)、2023 年 12 月 15～17 日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各 6 名(合計最大 12 名)

【枠数】

男子: 500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、5000m リレー (1)

女子: 500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、3000m リレー (1)

男女混合: 男女混合 2000m リレー (1)

※第 3 戦は 500m が 2 回、第 4 戦は 1500m が 2 回実施される

【選考基準】

対象競技会:

- ・ 第 34 回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2023 年 10 月 7～8 日)

男女最大各 6 名の正選手及び最大各 3 名の補欠選手を以下の手順で選考する。

(1) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、500m または 1000m のいずれかで当該年度の派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。

ただし、以下の(2)で選考される者より上位の優先順であった者が、上記タイムトライアルに参加したものの派遣標準記録をクリアしていなかった場合は、対象競技会の最終日終了直後に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。

(2) 対象競技会において、各距離で第 1 位の者を選考する。

次に、各距離で第 2 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から対象競技会の 500m に

おけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

以下、派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。

(3) 上記(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女最大各3名を補欠として選考する。

(4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 上記(1)～(2)で選考された選手が、世界ジュニアショートトラック選手権大会への参加資格を持ち、参加を希望した場合は、男女各上位1名を日本代表選手として内定する。
- ~~同一シーズン内に、ジュニアワールドカップとシニアワールドカップの両方に出場することができない可能性がある。その場合、該当選手はどちらの大会に出場するかを選択する。~~
- ・ ISU Communication No.2579において、シニアワールドカップ第1～4戦に参加する/した選手はジュニアワールドカップ第1, 2戦に参加しないように推奨していることから、ジュニアワールドカップ参加資格を持ち、本競技会の選考対象となった選手は、シニアとジュニアのどちらに参加するかを選択するものとする。

4. ワールドカップ第5戦～第6戦

【開催場所、期間】

第5戦:ドイツ(ドレスデン)、2024年2月9～11日

第6戦:ポーランド(グダニスク)、2024年2月16～18日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各5名(合計最大10名)

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、5000mリレー(1)

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)

男女混合:男女混合2000mリレー(1)

※第5戦は1000mが2回、第6戦は500mが2回実施される

【選考基準】

対象競技会:

- ・ 第46回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2024年1月7～8日)

男女最大各5名の正選手及び最大各3名の補欠選手を以下の手順で選考する。

(1) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、500m または1000m のいずれかで当該年度の派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。

ただし、以下の(2)で選考される者より上位の優先順であった者が、上記タイムトライアルに参加したものの派遣標準記録をクリアしていなかった場合は、対象競技会の最終日終了直後に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。

(2) 対象競技会において、各距離で第1位の者を選考する。

次に、各距離で第 2 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

以下、派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。

(3) 上記(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女各 3 名を補欠として選考する。

(4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

~~同一シーズン内に、ジュニアワールドカップとシニアワールドカップの両方に出場することができない可能性がある。その場合、該当選手はどちらの大会に出場するかを選択する。~~

5. 世界ショートトラック選手権大会

【開催場所、期間】

オランダ(ロッテルダム)、2024 年 3 月 15~17 日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女各 3 または 5 名(合計最大 10 名)

※ISU より、後日通知される内容による。

※リレー出場権はワールドカップでの最終ランキングにより決定される(この出場権を得た場合、男女それぞれ最大 5 名の派遣が可能となる)。

【枠数】

男子:500m(1)、1000m(2)、1500m(2)

女子:500m(2)、1000m(1)、1500m(2)

※リレー種目の出場権は、ワールドカップでの最終ランキングにより決定される。

【選考基準】

対象競技会:

- ・ 第 46 回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2024 年 1 月 7~8 日)

男女最大各 5 名の正選手及び各 3 名の補欠選手を以下の手順で選考する。

(1) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、500m または 1000m のいずれかで当該年度の派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。

ただし、以下の(2)~(5)で選考される者より上位の優先順であった者が、上記タイムトライアルに参加したものの派遣標準記録をクリアしていなかった場合は、対象競技会の最終日の終了直後に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。

(2) 対象競技会終了時点ではリレー種目の出場権の有無が決定していないため、まずエントリー枠が確定している男女各 3 名を選考し、男女リレー種目の出場権獲得状況に従って、(5)~(6)の方法で残りの正選手及び補欠選手を選考する。

- (3) エントリー枠が確定している男女各 3 名について、まず対象競技会の各距離で第 1 位の者を選考する。
これでエントリー枠の上限人数を満たさない場合は、2 名の出場権がある種目について、各距離で第 2 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。
- (4) 上記(3)までで当初エントリー枠上限の 3 人を満たさない場合は、各距離で第 2 位の者の中から、(3)で選考された選手を除き、対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を選考する。
ここまででエントリー枠上限の 3 人を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。
- (5) 男子又は女子リレーの出場権が獲得できた場合、上記(3)～(4)で選考された 3 名を除き、各距離で第 2 位の者を選考する。
ここまででエントリー枠の上限の 5 人を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。
以下、派遣可能人数を満たすまで、順位を繰り下げて選考する。
- (6) 上記(2)～(5)で選考された者を除き、(5)と同様の方法で上位から男女各 3 名を補欠として選考する。
- (7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

6. ジュニアワールドカップ第 1 戦～第 2 戦

【開催場所、期間】

第 1 戦:オランダ(レーワルデン)、2023 年 11 月 25～26 日

第 2 戦:オランダ(レーワルデン)、2023 年 12 月 2～3 日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各 4 名(合計最大 8 名)

~~※ISU より、後日通知される内容による。~~

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000m リレー(1)※

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000m リレー(1)※

男女混合:男女混合 2000m リレー(1)

~~※ISU より、後日通知される内容による。~~

※競技スケジュールに余裕がある場合に実施される。

*第 1 戦は 1000m が 2 回、第 2 戦は 500m が 2 回実施される

【選考基準】

対象選手は、2004 年 7 月 1 日から 2008 年 6 月 30 日までに生まれた者(ISU 一般規程第 108 条 2 項)とする。

対象競技会:

- ・ 第 34 回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2023 年 10 月 7～8 日)

男女最大各 4 名の正選手及び最大各 3 名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 対象競技会において、対象年齢の選手による距離別順位リストを作成する。
 - (2) 上記(1)のリストにおいて、各距離で第1位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して 選考する。
~~ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は次に~~、各距離で第2位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。
~~ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は~~、各距離で第3位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。
- 以下、上記(1)の中から派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。
- (3) 上記(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女最大各3名を補欠として選考する。
 - (4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ~~同一シーズン内に、ジュニアワールドカップとシニアワールドカップの両方に出場することができない可能性がある。その場合、該当選手はどちらの大会に出場するかを選択する。~~
- ・ ISU Communication No.2579において、シニアワールドカップ第1～4戦に参加する/した選手はジュニアワールドカップ第1,2戦に参加しないように推奨していることから、本競技会の選考対象となった選手は、シニアとジュニアのどちらに参加するかを選択するものとする。

7. 世界ジュニアショートトラック選手権大会

【開催場所、期間】

ポーランド(グダニスク)、2024年2月22～25日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各4名(合計最大8名)

※ISUより、後日通知される内容による。

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)

男女混合:男女混合2000mリレー(1)

【選考基準】

対象選手は、2004年7月1日から2008年6月30日までに生まれた者(ISU一般規程第108条2項)とする。

対象競技会:

- ・ 第34回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2023年10月7～8日)
- ・ 第43回全日本ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2023年12月9～10日)

男女最大各4名の正選手及び各3名の補欠選手を以下の手順で選考する。

(1) 対象選手の中で、ワールドカップ第 3 戦～第 4 戦の日本代表となった者(補欠は含まない)のうち、世界ジュニアショートトラック選手権大会へ参加を希望する場合は、男女各 1 名を日本代表選手として内定する。

なお、当該選手は第 43 回全日本ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会(以下「全日本ジュニア選手権」という)への参加を免除する。

(2) 全日本ジュニア選手権において、各距離で第 1 位の者を選考する。次に、各距離で第 2 位の者の中から全日本ジュニア選手権の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から全日本ジュニア選手権の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

以下、上記(1)の中から派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。

(3) 上記(1)～(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女各 3 名を補欠として選考する。

(4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

8. 第 4 回ユースオリンピック冬季競技大会(2024/江原道)

【開催場所、期間】

韓国(江原道)、2024 年 1 月 19～2 月 1 日(ショートトラック競技は 2024 年 1 月 20 日～24 日)

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女各 2 名(合計 4 名)

【枠数】

男子:500m(2)、1000m(2)、1500m(2)

女子:500m(2)、1000m(2)、1500m(2)

男女混合:男女混合 2000m リレー(1)

【選考基準】

対象選手は、2006 年 7 月 1 日から 2008 年 6 月 30 日の間に生まれた者とする。

対象競技会:

- ・ 第 4 回ユースオリンピック冬季競技大会ショートトラックスピードスケート日本代表選手選考競技会(山梨県甲府市、2023 年 10 月 28～29 日)

男女各 2 名の正選手及び各 3 名の補欠選手を以下の手順で選考する。

(1) 対象競技会において、各距離で第 1 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 2 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。

(2) 上記(1)と同様の方法で、上位から男女各 3 名を補欠として選考する。

(3) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

2023/2024 ショートトラック派遣標準記録

(公財)日本スケート連盟
ショートトラック強化部

	女子	男子
500m T.T.	43.630	40.935
1000m T.T.	1:31.782	1:25.389

- ※ 適用対象となる国際競技会は、2023/2024 シーズンの世界ショートトラック選手権大会、ワールドカップ第 1 戦～第 6 戦、四大陸ショートトラック選手権大会とする。
- ※ 上記派遣標準記録は、以下に示す 6 回のショートトラック強化部主催タイムトライアルで記録される必要がある。いずれかの種目で上記の標準記録以内のタイムで滑走すれば、条件を満たすものとし、2024 年 3 月 31 日まで有効とする。タイムトライアルの実施要項は、別途ショートトラック強化メーリングリストを通じて配信する。
- ・ 2023 年 9 月 30 日(土)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニンクセンター
 - ・ 2023 年 10 月 1 日(日)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニンクセンター
 - ・ 2023 年 10 月 4 日(水)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニンクセンター
 - ・ 2023 年 10 月 5 日(木)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニンクセンター
 - ・ 2024 年 1 月 4 日(木)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニンクセンター
 - ・ 2024 年 1 月 5 日(金)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニンクセンター
- ※ 適用対象となる国際競技会の選考において、対象競技会前に派遣標準記録以内で滑走していない者が、選考対象者(正選手のみ)よりも上位の結果だった場合には、直近の対象競技会の最終日終了直後に追加のタイムトライアルを実施する。
- ※ 過去 10 年間分のワールドカップの成績をもとに、男子は QFs、女子は Heats を 2 位以内でクリアできるレベルを外挿して 2023/2024 シーズンの予測値から算出(Calgary, SLC などの高地のレース、転倒などで極端に遅かったレースは除外して計算)。